

学級活動学習指導案

令和元年 5月 15日(水) 第4校時
2学年1組(男子15名、女子15名) 視聴覚教室

1. 議題 「いじめをなくすためにはどうしたらよいか考えよう」

内容項目(1) ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

2. 生徒の実態と議題選定の理由

(1) 生徒の実態

本学級は男子15名、女子15名、計30名の学級である。学級全体として明るい雰囲気があり、活発に意見交流をすることができる。いじめ防止強化月間に合わせて実施した「人権に関するアンケート」では、およそ8割の生徒が「人の失敗を笑わない。冷やかしたり傷つける言葉を使ったりしない。」と回答している。その点を考えると、普段から人の嫌がるような言動をしないように心掛けている生徒が多いと考えられる。ただ「クラスの人のために何かをしようとする」や「間違ったことだと思ったらクラスの誰にもはっきり言える」という項目に対しては、約4割の生徒があまりあてはまらないに回答した。つまり、やってはいけないことを理解できていても、思いやりのあふれるクラスにしていくための関わり方については、今後の課題となっていくところである。

(2) 議題について

文部科学省の調査によると、いじめの認知件数は小学校高学年から増加し始め、中学校1、2年生でピークを迎える。いじめのないクラスをつくるためには、生徒たちにいじめが起こる人間関係の特徴や心理的な構造(加害者、被害者、傍観者)に気付かせ、クラスが集団として成長する過程を意識させることが重要である。生徒にとってクラスは、学校生活の大半を過ごす大切な場である。この学習を通して、生徒一人一人が互いに意見を出して話し合い、自分にできることを判断し、行動できるようにすることは大変意義深いと考える。

また、いじめ防止強化月間ということで学級だけでなく、全校・専門部活動の中で人権に関する取組を積極的に実践していく。

3. 育成を目指す資質・能力

本議題について学習指導要領では、内容項目(1)ア「学級や学校における生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図り、実践すること」としている。ここで育成を目指す資質・能力としては、生活上の課題を見だし、互いの意見や考えを認め合いながら話し合い、合意形成することができるようにすること、合意形成したことに基づき、多様な他者と協力しながら人間関係や日常生活の改善を図ろうとすることができるようにすることなどが考えられる。また、そうした過程を通じて、多様な他者とよりよい人間関係を形成し、共働して日常生活の向上を図ろうとする態度を育てることも大切である。

4. 事前の活動

- 「人権に関するアンケート」に回答する。
- 学級委員と授業の進め方について、役割分担をしておく。
- いじめる理由としてどんなものがあるか考え、プリントに自分の考えを記入する。

5. 本時の学習

- (1) ねらい：いじめ問題に課題意識をもち、いじめを未然に防ぐために、自分や学級でできる取組について決める。
- (2) 準備：教師：プロジェクター・パソコン・役割分担表・学習プリント・ホワイトボード

(3) 展開

過程	主な学習活動	指導上の留意点及び支援
つ か む (5分)	1. 開会の言葉	○話しやすい雰囲気では会を進行できるように、席の配置を工夫する。 ○生徒の司会進行を進める。事前に打ち合わせをしてマニュアルを作成しておく。
	2. 議題の確認	○学級全員が話し合う内容と流れを理解できるように、議題及びねらいについて確認する。
	議題例：いじめをなくすためには、どうしたらよいか考えよう	
追 究 す る (30分)	3. 先生の話	○うわべではなく本音で話し合いができるように助言する。
	4. いじめをする理由について考える	○事前に考えてきてもらった意見を何名かに発表してもらおう。 〔・自分を優位にしたいじめ ・自分がいじめられないため ・自分のストレスのはけ口〕
	5. いじめはどこに問題があるか考える	○アンケート結果を提示しつつ、いじめの四層構造について理解させた上で、どこに問題があるか意見を出し合う。
	6. いじめをなくすためにはどうしたらよいか考える (班別) 【集団討議】	○学級において、いじめの小さな芽を見付け、いじめがエスカレートしないためにできることを班ごとに考える。 ○班編制は、話し合いがスムーズに進むように事前に決めておく。また事前に班の司会者に個の意見を大切にすることや意見のまとめ方を指導しておく。
ま と め (15分)	7. 班で話し合った意見を発表する	○ホワイトボードに記入をして黒板に貼り付けられるようにする。
	8. 班から意見をまとめていじめが起きにくい学級になるために取組を決める 【合意形成】	○各班の意見を統合した、総意による決定になるように助言する。 ○具体的な取組になるように助言する。 〔・いじめを発見したら、必ず先生に報告する。 ・学級で起きたいじめは学級の問題として、自分たちで話し合って解決する。〕
	9. 本時のまとめ	○決定した事項を再度確認し、全員で実践していく決意をする。
	10. 先生の話	○司会と記録係へ向けて賞賛の拍手を送る。

(4) 評価項目

話し合ったことを活かして「何を、どのように、どの程度いじめ問題に取り組むのか」について具体的な目標を書いている。(思考・判断・表現)【ワークシート】

6. 事後の活動

○学級で決めた決定事項について振り返る。

- ・生活ノートや毎日の会話を通して、実践していることを認めながら励ましていく。
- ・実践できていなかったり、新たな提案があったりした時は改めて話し合いの場を設ける。
- ・県から送付された「いじめ防止ポスター」に並べて、合意形成したものを掲示する。